



ごあいさつ

杉循環器科内科病院 副院長 堀内 雅彦

当院は本年12月で病院創立満25周年を迎えます。創立以来、大牟田市を中心とした有明医療圏の中で、一貫して内科救急医療の一翼を担ってきたとのささやかな自負を持っておりますが、この体制をさらに充実強化するべく、来年1月の竣工をめざして、新しく救急棟の建設が漸次、進行中です。この棟の完成の暁には、急性心筋梗塞を始めとする、一時の猶予もならない循環器急性疾患に対して、患者さんの搬入から診断、治療までが殆どタイムロスなしに遂行出来るようになります。そして当院にはこれらの医療を支えるコンピューター断層撮影装置(CT)や血管撮影装置など、種々の最新鋭デジタル医療機器類が揃っており、これらの機器を最大限に駆使して、迅速かつ正確な診断、適切な治療を実践していくことが私達に課せられた唯一最大の使命だと考えています。ただ、久しく「根拠に基づいた医療」ということが言われ、ややもすれば「パーセント医学」が跋扈する昨今の医療現場においては、優れて医療従事者の感性というものが大切であると考えます。ある出典の中に「臨床的専門技量は経験に基づく医学のアートであり、外部の根拠を基にした批判的検証評価はサイエンスである」との言葉があります。私達の病院を利用されるすべての患者さんやそのご家族に対して、当院の理念の中にもありますように、「人間の心と身体を熟視し、思いやり、慈しみ、やさしさで心あたたまる医療を追求する」ということを実践するためには、決して機械のようにデジタル的ではない、よりアナログ的なアートの部分にこだわりを持った診療、介護をも同時に行っていかなければならないと思っております。このためには、当院の職員一同が視る、聴く、触るなどのいわゆる五感というものをいつも鋭く豊かな状態にして、目配り、気配りを常に怠らないように心掛けておく必要があります。私達はこれらのことを常に意識しながら、当院にかかれたすべての方々が、当院に来て良かったと心から満足をしていただけるよう、今後も努力精進をしていく所存であります。

 **杉循環器科内科病院**

〒837-0916 大牟田市大字田隈950-1 (誠修高校前)
TEL(0944)56-1119 FAX(0944)56-2077
E-mail: info@sugi-hosp.jp URL <http://www.sugi-hosp.jp>

杉循環器科内科病院 診療部長 香月与志夫

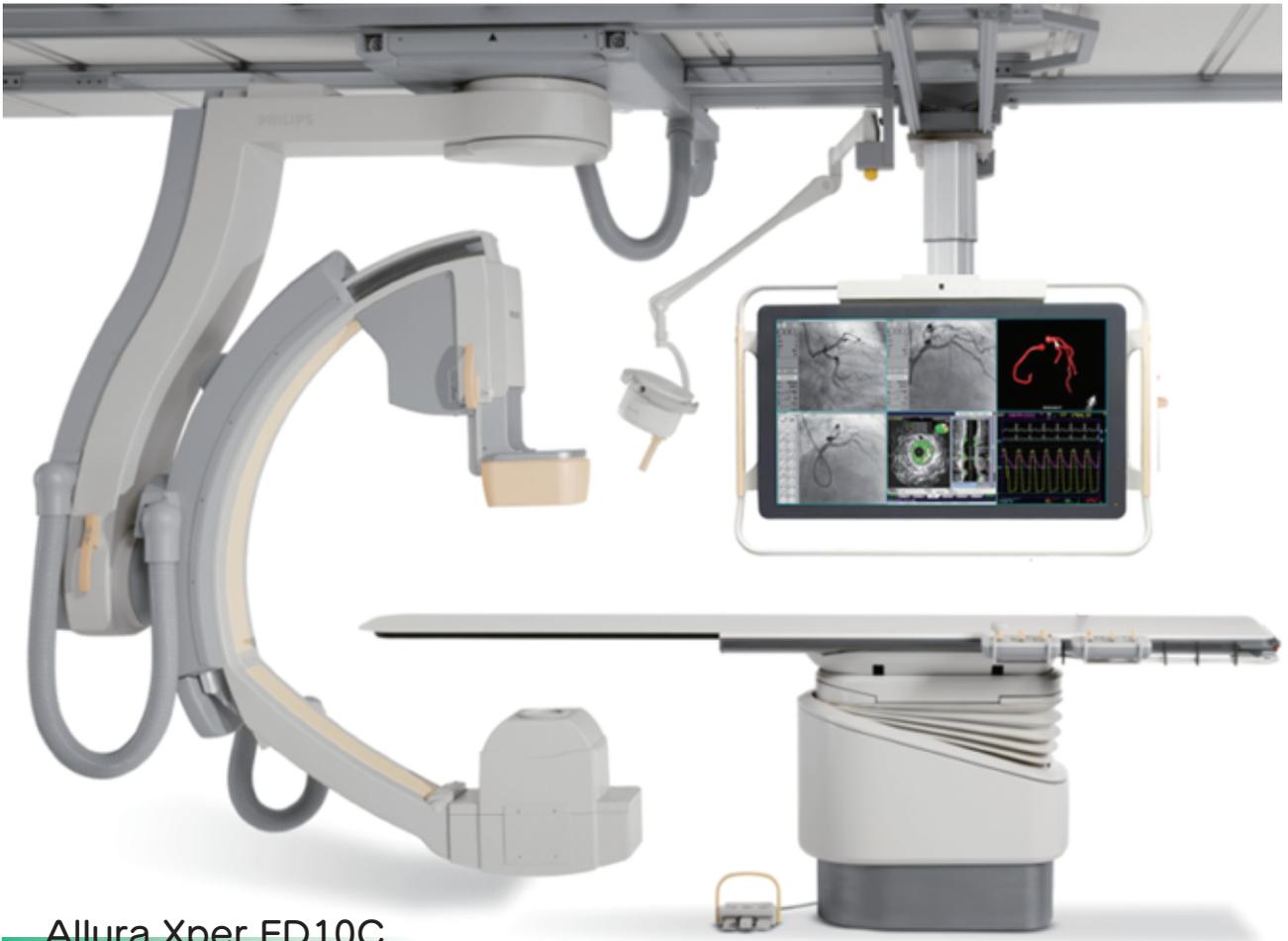
救急診療病棟設立、血管造影室の拡大に向けて

当院は1987年開院以来、「医学的に正しい医療」、「心あたたまる医療」、「地域社会への貢献」を理念とし、循環器を中心とした内科系24時間救急病院として、また、血液維持透析センターを擁する腎臓内科病院として大牟田地区を中心とした地域医療に取り組んでまいりました。平成20年度より循環器専門医の増員、冠動脈造影も可能な64列X線装置CTの導入などの診療体制拡充により、外来、入院患者数、および救急車搬入も増加しております。また、最近よく話題となっておりますが、食事の欧米化で高血圧症、脂質異常症、糖尿病にかかる方が増加しており、動脈硬化が早期に進行し、狭心症、心筋梗塞を発症する方が増加しております。当院でも狭心症、心筋梗塞の患者さんが増えており、経皮的冠動脈形成術も平成21年に初めて100例を越え、年々増加しております。

質の高い医療を維持、提供できるよう日々努力しておりますが、さらに充実したまた、迅速な救急医療を行えるよう、現在救急診療棟を建設中であります。救急車が搬入しますとすぐ処置室があります。また、エレベーターで2階へ移動すると血管造影室があります。狭心症、急性心筋梗塞の方では迅速に処置、移動でき、検査、治療までの時間の短縮が期待できます。

また、血管造影装置も新調します。最新式の装置であり、更なる診断の向上、治療の質の向上を目指します。平成25年1月下旬から稼働予定となっております。今後も365日、24時間体制で診療に取り組んでいきます。





Allura Xper FD10C

看護部長 紫牟田静子

待望の救急車受け入れ口が出来上がろうとしています。今までの救急車の搬入は、構造上当院の玄関から外来患者さんがいらっしゃる待合の前になってしまい、ストレッチャーに乗っていらっしゃる患者さんのことを思うと、申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、年明けには救急棟オープンの予定です。エレベーターで上がると、2階は血管造影室が新しくなって稼働します。

救急患者の対応がスムーズにできるように、昼間は外来から一人、病棟から一人と救急担当を決めて対応することとし、夜間はすでに夜勤ナースを2人から3人へと増員しました。

最近では救急搬入も多くなりましたが、心筋梗塞の患者さんが運ばれて見えた時など、30分で十分に血管造影室までの搬入ができるようになりました。5~6年前からすると、とてもスピーディです。これも、血管造影に介助としてつくナースの訓練と、救急隊やスタッフの連携の結果だと、皆の成長をうれしく思っています。

大牟田市で循環器疾患を受け入れる病院として、最大限に活躍できたらと願う次第です。



知っていますか？

心臓リハビリテーションってなに？

久留米大学付属医療センター教授 池田 久雄
杉循環器科内科病院リハビリ室 上葉 亮太

当院で行っている心臓リハビリテーションについてお話をしたいと思います。一般に『リハビリテーション』と言えば、足を骨折したあとの歩行訓練や脳卒中で麻痺が出た後の回復訓練など機能回復を目的とした運動療法による医療行為だと思われがちです。しかし当院で行う『心臓リハビリテーション』とは、運動療法のみではなく食事療法、薬物療法、ストレス管理や禁煙指導までを含めた多職種により包括的にリハビリテーションを行うことです。とくに理学療法士は心筋梗塞や慢性心不全、閉塞性動脈硬化症などの患者さんに対して運動療法を行います。この運動療法は心臓・身体の機能を高め、患者さんのQOL(生活の質)を向上させます。さらに年齢や身体状況を考慮した運動療法を行うことで、心血管病を悪化させることなく安全に行うことができます。



当院では、多職種が集まり心リハカンファレンスを行い、様々な角度から一丸となって、チーム医療に努めています。なぜそのようなことが必要なのかというと、心筋梗塞や狭心症など、動脈硬化によって引き起こされる冠動脈疾患の大半に、高血圧、脂質代謝異常、糖尿病、肥満などの生活習慣病が関与しているからです。また動脈硬化を悪化させる喫煙や過度のストレスなどを抱えている方も少なくありません。急性期治療が成功し、無事に社会復帰しても、以前の生活習慣を変えなければ再発する可能性が高いのです。そこで1人の患者さんに複数の専門職が生活指導を行うことが非常に重要となります。当院では、心血管病発症後の「急性期」から、社会復帰や外来でのリハビリテーションを含めた「回復期」および「維持期」にわたって心臓リハビリテーションを実施しています。このように当院では、急性期から維持期までの完結型の医療を、切れ間無く円滑に進めることで、再発を予防し快適な生活を維持することが可能です。我々は、心血管病を患っても、元気で楽しく長生きできることを目指し、心臓リハビリテーションを行っています。



生活習慣病が関与しているからです。また動脈硬化を悪化させる喫煙や過度のストレスなどを抱えている方も少なくありません。急性期治療が成功し、無事に社会復帰しても、以前の生活習慣を変えなければ再発する可能性が高いのです。そこで1人の患者さんに複数の専門職が生活指導を行うことが非常に重要となります。当院では、心血管病発症後の「急性期」から、社会復帰や外来でのリハビリテーションを含めた「回復期」および「維持期」にわたって心臓リハビリテーションを実施しています。このように当院では、急性期から維持期までの完結型の医療を、切れ間無く円滑に進めることで、再発を予防し快適な生活を維持することが可能です。我々は、心血管病を患っても、元気で楽しく長生きできることを目指し、心臓リハビリテーションを行っています。

フットケア

腎センター師長 末松 礼子



透析患者の高齢化や糖尿病性腎症を原疾患とする透析患者の増加、長期透析患者の増加により、足にトラブルを抱える患者さんは増加しています。当院で透析治療を受けられている患者さんは137名(平成24年11月20日現在)で、65歳以上の高齢者は66%、糖尿病を有する患者さんは45.4%、透析歴10年以上の長期透析患者

さんは31.4%を占めており、ABI(足関節上腕血圧比)値が低い方、動脈触知が弱い方、鶏眼や巻き爪、陥入爪、白癬があったりと多くの方が、足に何らかの問題を抱えています。しかし、高齢であることや網膜症、神経障害の合併症が、小さな傷を見落とし、気づいた時にはかなり悪化していたこともあり、中には大切な足を切断しなければならないという結果になることもありました。透析患者さんの下肢切断率は年々増加傾向にあり、その予後は非常に不良でQOL(生命の質、生活の質)の低下を招



いてしまいます。これまでも、月に1回糖尿病患者さんを中心にフットチェックを行い、その都度患者指導を行ってききましたが、高齢化や合併症がセルフケア不足や傷の発見を遅らせている状況は続いていました。透析患者の下肢切断が増加している中、看護師のフットチェックによる早期発見とフットケア(足のケア)が重要であり、現在は足病変のリスクが高い方は、週1回観察を行い、適切なケアを提供していくため、講師を招いて院内研修を実施し、ケア介入しています。



今年の透析セミナーでは、患者さん自身に足に関心を持っていただけるよう「足病変とフットケア」について行い、みなさん真剣に聞いていただきました。患者さんや家族に注意して頂きたいことは、こたつ・湯タンポによる低温やけど、爪切り時の深爪などにより傷を作らないこと。足は清潔を保ち、保湿を心がけること。自分に合った靴と清潔な靴下を履き、毎日足の観察をすることです。足に何らかの異常を感じた時には、自己判断せずに医師や看護師にご相談ください。



第2回 透析セミナー開催

医療機器管理室 室長 大塚 紹

9月30日(日)に杉病院リハビリテーション室において第2回透析セミナーを開催致しました。透析患者さん49名、ご家

族10名、スタッフ33名の参加でした。

堀内雅彦副院長の挨拶のあと、透析室師長より透析室患者満足度調査と平成23年度に実施した避難訓練についての報告がありました。また、患者さんを代表して井浦博子さんより『8年間の透析生活を振り返って』と題し、ご自身の透析導入に至った経緯やこれまでの経験をお話して下さいました。また、治療を受けられるありがたさを腎友会の経緯と共に話しされ、患者さんやスタッフの心に響き胸が熱くなりました。改めて透析治療について考えました。

教育講演では、腎臓内科医師：児玉豪先生から『透析患者さんの足病変について』お話をして頂きました。透析患者さんへのお願いとして、足の症状、所見に早く気が付けば早く治療が行なえること、また動脈硬化、血管の石灰化を防ぐことが大切であり、体重増加、カルシウム・リンのコントロールをいっしょに頑張りましょう!とメッセージが込められていました。看護師からは『日常生活におけるフットケア』～病気に負けない足の作り方・足もいきいきするために～と心を込めて足の症状の説明から予防のポイント、爪の切り方や靴の選び方まで丁寧な説明がありました。理学療法士、作業療法士からは『一日一歩～今日からできるフットリハビリ～』として足を動かし、全員でフットリハビリを楽し行いました。管理栄養士からは『体の中からきれいに』と食物繊維の効果をお話して頂き、今回は“こんにゃく”の特徴とレシピについて紹介されました。



今回のセミナーは『足病変』というひとつの大きなテーマを取り上げ、多職種からの情報提供を企画しました。このセミナーを通して、改めてチーム医療の大切さを感じました。看護師が透析中にフットケアを行っており、今回のセミナーではフットケアを実施している意味や足を診る大切さを患者さんが感じられたことと思います。看護師より“足の観察をしましょう”と患者さん一人一人の足の状態を記載した自己チェックシートを作成したものを患者さんにお渡ししたり、フットケアのポイントをポスターにまとめて会場に展示したりと、とても手作り感にあふれ、思い出に残るセミナーでした。

講義を真剣に見ている患者さんの表情、チェックシートを見てとても感激されている患者さん、メモを一生懸命に取られている姿、フットリハビリを一生懸命にしている姿はとても印象的でした。フットリハビリは参加し全員が笑顔でした(先生方も靴下を脱いでいっしょに楽しくされていました!)。セミナーが終わってからは患者さんから「ありがとうございました」とのお言葉を頂き、私達スタッフも嬉しく思います。セミナーの企画、準備から当日まで大変な面もありましたが、その分患者さんにとってもスタッフにとっても充実した一日になりました。透析患者さんの合併症予防に向けて今後も患者さんとともに取り組んでいきたいと思ひます。



シヴァナンダヨガが始まりました

シヴァナンダヨガが、6月よりリハビリテーション室で始まりました。シヴァナンダヨガの特徴は、12の基本アーサナ(ポーズ)があり、アーサナとアーサナの間にリラクスのポーズが入り、緊張と弛緩を繰り返します。そこに呼吸法を取り入れることによって、深いリラクゼーションが得られるそうです。実際にインドに渡り、1ヵ月半ヴィノッド・クマール氏より指導を受けた、先生(事務の荒川さん)指導の下、1時間半ほどでスッキリしています。ストレッチでは『若い頃はもっと柔軟性があったのに…痛い』と身体の衰えを感じたり、仰向けになり呼吸を整えるポーズでは、あまりのリラクセス効果に眠ってしまい、先生に心配をかけたらしながら楽しく行っています。皆さんも一度体験してみてもいかがでしょうか。



リハビリテーション室主任 江崎かおる

杉の子 子育て 支援会

10月21日(日)、『子育て支援 杉の子会』よりカドリー・ドミニオンへ行ってきました。大人36名、子供37名の計73名参加となりました。バス旅行は子供の喜びも大きく、移動中は阿蘇の紅葉も楽しむことができました。カドリー・ドミニオンではハロウィンパーティー期間中のためハロウィンの衣装を着た動物たちが出迎えてくれました。大きなクマを見るのは初めてなので子供が怖がらないか不安でしたが、餌をもらうためのパフォーマンスを見ると餌やり願望に火がつき、親としてはパンの耳かお肉を購入するか悩むこととなりました。お肉の入ったバケツを見るとクマたちの反



応は一段と良く、やる気の無い手招きから拍手へと変わるところが面白かったです。ふれあえる動物も多く、帰りのバスではいろいろな動物に会ってきたよと報告する子供たちをほほえましく思いました。杉の子会の思い出とともに職員の子供たちが毎回大きくなっていく姿も楽しみのひとつになっています。

リハビリテーション室 江口 智里

大牟田医師会看護専門学校主催 ビーチバレーボール大会に参加して



11月23日(金)大牟田市民体育館で大牟田市内の病院・施設が集まり、計42チームが参加し開かれました。当院からは男女11名2チーム参加しました。2チームともAパートに進むことができましたが、惜しくも優勝することはできませんでした。結果は残念でしたが、他の病院の方と交流を深めることができ、楽しくプレーをすることができたと思います。来年は優勝できるように今後も練習を頑張りたいと思います。

事務室 坂本 涼香

職員旅行

in
別府
看護部
宇都宮可奈

今回私は、初めて職員旅行に参加させて頂きました。
ほかの部署の方たちと交流する事が出来とても楽しい時間を過ごしました。
1日目は雨がひどく一部予定変更がありましたが、臼杵石仏見学の時には、バスから降りたとき小雨になり、現地ガイドさんからの説明を聞きながら普段みられない所も見学し、石仏に癒やされることが出来ました。貴重な体験をさせて頂きました。夜の宴会では、賑やかで色々な人達とお話することが出来ました。

翌日、ホテルからみた朝日はとても美しく、すがすがしい朝を迎えました。
急遽スケジュール変更になったことで、湯の花小屋を見学に行きました。湯の花が出来る過程は大変興味深くとても勉強になりました。今回の旅行の1番の楽しみだった湯布院の散策では、短時間ながら十分に満喫することが出来、お目当てのロールケーキも買うことが出来ました。

今回旅行委員の方々は、準備・後片付けと大変ご苦労だったと思います。お疲れ様でした。旅行に参加させて頂き本当にありがとうございました。



職員旅行

in
天草
検査室
松ヶ野有佐

平成24年11月25日(日)、天草日帰り旅行へ行ってきました。
最近雨や曇り空が続き天候が大変心配されましたが、当日は青空の非常に美しい快晴で、絶好の旅行日和でした。
快晴のおかげで、私が一番楽しみにしていたイルカウォッチングでは伸び伸びと天草の海を泳ぐイルカの群れをたくさん間近で見ることができました。今回は運よく赤ちゃんイルカにも出逢えて、可愛いイルカに夢中になっていました。

昼食は海老盛りたくさんの海の幸をいただき、なかでも車海老の踊り食いは初めての経験で、元気に飛び跳ねる車海老を自分で剥くのは大変難しかったです。新鮮な海老は甘さがあって非常に美味しかったです。

帰りに寄った藍のあまくさ村では、天草四郎の格好をした店員さんがいたりご当地のお土産がたくさんあって店内は大混雑で活気に満ちていました。

今回、私が入職して初めての職員旅行で少し緊張していましたが、普段あまり話すことの少ない他部署の方も気さくに話しかけて下さって、非常に充実した楽しい日帰り旅行となりました。

